

研修会：「地域で活躍～地域ケア会議からの訪問栄養食事指導～」

日時：令和6年12月14日（土）10時30分～16時30分

場所：東邦ガス（株）プロ厨房オイシス

目的：地域共生社会における栄養ケア・ステーションと栄養士の役割を多職種で考える

研修報告

在宅医療・介護運営委員会では、令和6年7月から合計5回の地区研修会と本研修会である合同研修を開催した。その結果、地域の拠点の整備と顔の見える関係作り、また地域の連携強化につながった。以下、12月14日、東邦ガス（株）プロ厨房オイシスにて48名（スタッフ12名含む）が参加した合同研修会について報告する。

午前は嚥下食デモと試食会をニュートリー（株）名古屋支店の川東氏と佐々木氏を講師に迎え、栄養補助食品やゾル・ゲル化剤などを用いた日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021（学会分類 2021）に準じた調整食コードの異なる試食で物性の違いを体験した。また、とろみ濃度の異なる飲料の飲み比べもした。さらに、そく粥つりなど簡易に食形態を調整できる食品を用いた実演や試食をした。これらは、居宅療養管理指導など訪問栄養の現場ですぐに応用でき、実践に即した講義であった。



午後は「栄養ケア・ステーションへの期待」と題し、野田正治氏（医療法人野田医院院長）と都築晃氏（藤田医科大学病院理学療法士）にご講演頂いた。野田氏は、実際の患者と共に行った地域の防災訓練の様子や課題を述べ、さらに栄養ケア・ステーションや栄養士へ期待することを述べた。



都築氏は、栄養士が理学療法士と連携することの重要性や地域ケア会議の事例を通して栄養士の役割を示し、栄養ケア・ステーションへの期待を述べた。

その後、講師2人と奥村氏とのパネルディスカッションを行い、参加者との活発な意見交換を行った。参加者からは野田氏の行っている防災訓練に参加したいとの意見があり、野田氏は見学を快諾する一場面もあった。奥村氏からは地域栄養ケアの実践者を増やすためには、愛知県栄養士会栄養ケア・ステーション研修修了証を持つ栄養士が増え、県内の医師やリハ職と連携し実働できる仕組み作りが重要と説明があった。

グループワークでは5ブロックに分かれて話し合いを行った。どのブロックも地区研修会に参加した栄養士が多くすでに顔見知りであるため、活発な意見交換ができた。そして、さらなる横のつながりの重要性を再確認し、具体的に実践につなげる話ができようだった。

本研修会では、地区研修会1回以上と合同研修会に参加した会員へ、修了証を贈呈した。

愛知県栄養士会副会長兼栄養CSセンター長の奥村氏より、地区研修と合同研修を終えた「修了者」41名の名前を読み上げ、修了者代表として江口澄子氏に認定証授与式を行った。

そして、ブロック長・副ブロック長を改めて紹介し、各ブロックの修了者と顔つなぎをした。

今年度のトリプル改定で県栄養ケア・ステーションの期待は更に高まったが、実践が伴っているとはいえない。在宅医療・介護運営委員会では、来年度は実践研修に力を入れる。

そのためにも、今年度修了者ととともに地域で活動できる栄養士の人材育成を行う予定である。